

海外出張報告書

名古屋市会欧州視察団



令和6年7月10日（水）～7月17日（水）

目 次

○ 視察団名簿	1
○ 日程表	3
○ 訪問国の概要	4
○ はじめに	7
○ 事前協議会	9
1 リトアニア共和国	10
(1) TOYOTA センター TOKVILA【社会経済状況調査】	10
(2) ヴィリニウス市役所【ヴィリニウス市訪問】	19
(3) リトアニア国立博物館【博物館施策調査】	28
(4) ヴィリニウス大学【大学施策調査】	35
(5) 杉原千畝記念館【平和関係施策調査】	43
(6) トラカイ島城【トラカイ島城視察】	53
(7) 駐リトアニア日本国大使との懇談会【社会経済状況調査】	55
(8) ヴィリニウス市内視察	63
2 フランス共和国	67
(1) フジタチャペル視察	67
(2) 大聖堂視察	74
(3) ランス市役所【ランス市表敬訪問】	78
(4) 臨時日本庭園「ランスから名古屋へ」 視察	89
(5) ランス美術館保存センター【美術館施策調査】	92
(6) 在フランス日本国大使館【大規模スポーツ大会関係施策調査】	99
○ おわりに	123
[参考資料]	
・ 議決	124

名古屋市会欧州視察団 名簿

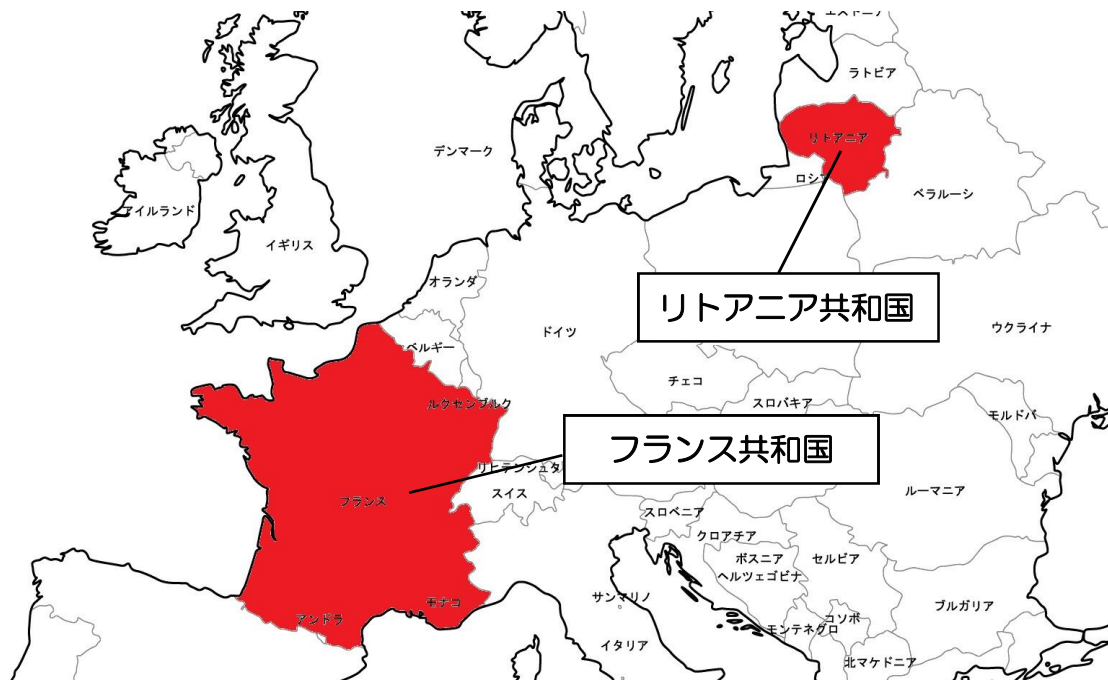
- 【団 長】 ふじた 和 秀 (自由民主党名古屋市会議員団)
- 【副団長】 服 部 将 也 (名古屋民主市会議員団)
- 金 庭 宜 雄 (公明党名古屋市会議員団)
- 【団 員】 伊 神 邦 彦 (自由民主党名古屋市会議員団)
- 横 井 利 明 (自由民主党名古屋市会議員団)
- 木 下 優 (公明党名古屋市会議員団)
- 丹 羽 ひろし (自由民主党名古屋市会議員団)
- 岩 本たかひろ (自由民主党名古屋市会議員団)
- 成 田たかゆき (自由民主党名古屋市会議員団)
- 西 川 ひさし (自由民主党名古屋市会議員団)
- 岡 本やすひろ (名古屋民主市会議員団)
- さわだ 晃 一 (公明党名古屋市会議員団)
- 森 ともお (名古屋民主市会議員団)
- 日 比 美 咲 (名古屋民主市会議員団)
- 吉 岡 正 修 (公明党名古屋市会議員団)
- さかい 大 輔 (公明党名古屋市会議員団)
- おくむら文 悟 (名古屋民主市会議員団)
- くにまさ直 記 (名古屋民主市会議員団)
- 渡 辺やすのり (自由民主党名古屋市会議員団)

団長  ふじた 和秀	副団長  服部 将也	副団長  金庭 宜雄	 伊神 邦彦
 横井 利明	 木下 優	 丹羽 ひろし	 岩本 たかひろ
 成田 たかゆき	 西川 ひさし	 岡本 やすひろ	 さわだ 晃一
 森 ともお	 日比 美咲	 吉岡 正修	 さかい 大輔
 おくむら 文悟	 くにまさ 直記	 渡辺 やすのり	

日 程 表

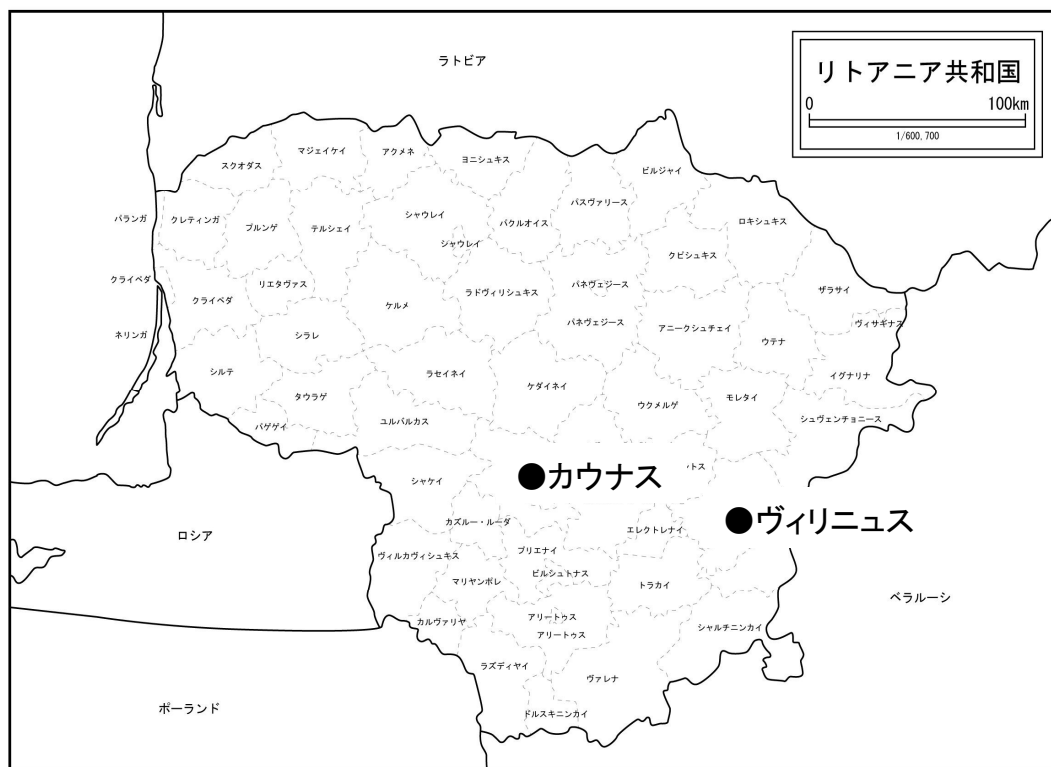
日付	地名・空港	日 程
7月10日 (水)	名古屋駅 発 東京 着	【東京泊】
7月11日 (木)	羽田空港 発 ヴィリニユス国際空港 着 (ヴィリニユス市)	【ヴィリニユス泊】
7月12日 (金)	(ヴィリニユス市)	社会経済状況調査 (TOYOTA センターTOKVILA) ヴィリニユス市訪問(ヴィリニユス市役所) 博物館施策調査(リトアニア国立博物館) 大学施策調査 (ヴィリニユス大学) 【ヴィリニユス泊】
7月13日 (土)	(カウナス市)	平和関係施策調査(杉原千畝記念館) トラカイ島城視察 駐リトアニア日本国大使との夕食会 【ヴィリニユス泊】
7月14日 (日)	(ヴィリニユス市) ヴィリニユス国際空港 発 シャルル・ド・ゴール国際空港 着 (ランス市)	ヴィリニユス市内視察 【ランス泊】
7月15日 (月)	(ランス市)	フジタチャペル視察 大聖堂視察 ランス市表敬訪問 (ランス市役所) 臨時日本庭園「ランスから名古屋へ」視察 美術館施策調査 (ランス美術館保存センター) 【ランス泊】
7月16日 (火)	(パリ市) シャルル・ド・ゴール国際空港 発	大規模スポーツ大会関係施策調査 (在フランス日本国大使館) 【機中泊】
7月17日 (水)	羽田空港 着 名古屋駅 着	

訪問国の概要



リトアニア共和国  首都： ヴィリニウス	〔面積〕 65,300平方km（北海道の約78%） 〔人口〕 約287万人 〔言語〕 リトアニア語 〔宗教〕 主にキリスト教(カトリック) 〔民族〕 リトアニア人(85%)、ポーランド人(5%)、ロシア人(4%) 〔政体〕 共和制 〔元首〕 ギターナス・ナウセーダ大統領 〔主要産業〕 石油、食品加工業、木材加工業 〔日本との貿易〕 (輸入) 121億円 (機械類、車輛類、化学繊維等) (輸出) 204億円 (たばこ、乳製品・加工食品等)
フランス共和国  首都：パリ	〔面積〕 549,134平方km（日本の1.44倍） 〔人口〕 約6,804万人 〔言語〕 フランス語 〔宗教〕 カトリック、イスラム教、プロテスタント、ユダヤ教等 〔民族〕 フランス人（ケルト人、ラテン人およびチュートン人の混血）、 少数民族 〔政体〕 共和制 〔元首〕 エマニュエル・マクロン大統領 〔主要産業〕 自動車、化学、機械(農業は西欧最大の規模) 〔日本との貿易〕 (輸入) 8,400億円 (機械類及び輸送用機器、化学製品等) (輸出) 13,286億円 (化学製品、機械類及び輸送用機器等)

リトアニア共和国



ヴィリニウス	カウナス
リトアニア共和国の首都で、同国最大の都市である。人口は約 59 万人。かつてポーランド領だったこともある。バルト三国で唯一海に面していない首都で、バルト海に面したリトアニア主要港のクライペダからは 312 km 離れている。 1994 年に旧市街はユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録された。また、2009 年には欧州文化首都に選ばれたこともある。 人口：約 59 万人 市長：ヴァルダス・ベンクンスカス	中世の面影を残すリトアニア第二の都市。14 世紀に最初の記録に登場する古い町であり、15 世紀半ばにハンザ同盟の代表部が設けられ、商業活動の中心地として繁栄した。 カウナスは両大戦の 22 年間、ポーランドに占領されたヴィリニウスに代わってリトアニアの首都となった。第二次世界大戦中には日本領事館が置かれ、杉原千畝氏が多くのユダヤ難民に対し「命のビザ」を発給した地としても知られている。 人口：約 35 万人 市長：ビスバルダス・マティヨシャイティス

フランス共和国



ランス	パリ
歴代の国王が戴冠式を行ってきた街であり、シャンパンの産地としても知られ、数多くの有名なシャンパン・メゾンが拠点を置いている。 美術館同士の友好交流をきっかけとして、2017 年 10 月 20 日には本市と姉妹都市提携を結んでいる。 ノートルダム大聖堂、トー宮殿、サン・レミ聖堂などは、ユネスコの世界遺産にも登録されており、15 世紀にジャンヌ・ダルクがシャルル 7 世を戴冠式に導いたノートルダム大聖堂には、毎年約 150 万人の観光客が訪れる。 人口：約 18 万人 市長：アルノー・ロビネ	セーヌ川中流に位置するフランス共和国の首都。フランス最大の都市であり、同国の政治、経済、文化などの中心地であるとともに、世界の文化・芸術の発信地。その歴史は紀元前 1 世紀のローマ人の植民地として始まり、ヨーロッパで最も古い大学の一つ、パリ大学がある。 市街は 20 区からなり同心円状及び放射状に走る大道路に貫かれている。ルーブル美術館、ノートルダム寺院、凱旋門、エッフェル塔、シャンゼリゼ通りなど数多くの名所がある。 人口：約 224 万人 市長：アンヌ・イダルゴ

は じ め に

名古屋市会欧州視察団は、令和6年7月10日から7月17日までの8日間にわたり、ヨーロッパの2カ国（リトアニア共和国、フランス共和国）、計4都市（ヴィリニウス市、カウナス市、ランス市、パリ市）を訪問し、7月17日に帰名した。

今年度の名古屋市会欧州視察団では、これまで実施してきた市政上の重要課題等に対する海外の先進事例の「調査」に加え、これまで、リトアニアまたはランス市と交流を行ってきた関係団体の声を親書として現地にお届けすることにより、本市との交流をより一層深め、市民生活の向上やビジネス関係のさらなる発展につなげる取り組みを実施することとした。

そのため、6月27日に開催した事前協議会には、これまでリトアニアまたはランス市と交流を行ってきた名古屋市内における公的または民間の関係団体の方にもご出席いただき、意見交換を行うとともに親書を承った。

最初の訪問国であるリトアニア共和国においては、まず、7月12日に TOYOTA センターTOKVILA を訪問し、現地の自動車産業を中心に社会経済状況に関する調査を行うとともに、TOKVILA の修理工場等の現場視察を行った。次に、ヴィリニウス市役所を訪問し、ヴィリニウス市長と懇談を行った後に、関係団体から承った親書をお渡しした。その後、リトアニア国立博物館において博物館施策に関する調査、ヴィリニウス大学において大学施策に関する調査を行うとともに、それぞれ関係団体から承った親書をお渡しした。

7月13日は、まず、カウナス市の杉原千畝記念館を訪問し、平和関係施策について調査を行った後に、トラカイ島城の視察を行った。その後、駐リトアニア日本国大使との夕食会を開催し、リトアニア及びヴィリニウス市に関する社会経済状況等について懇談するとともに、関係団体から承った親書をお渡しした。

7月14日は、杉原千畝氏の功績を称えて設置された杉原記念桜公園をはじめとしたヴィリニウス市内の視察を行った後に、リトアニア共和国を出国した。2カ国目の訪問国であるフランス共和国に入国した後、本市の姉妹都市であるランス市へ向かった。

7月15日は、藤田嗣治氏が設計し、建築したフジタチャペルの視察を行った後に、大聖堂の視察を行った。次に、ランス市役所を訪問しランス市議会の議会制度等について調査を行った後、ランス市長と懇談を行い、関係団体から承った親書をお渡しした。その後、ランス市において設置された臨時日本庭園「ランスから名古屋へ」を視察した。最後に、ランス美術館保存センターを訪問し、美術館施策について調査を行うとともに、関係団体から承った親書をお渡しした。

7月16日は、ランス市からパリ市に移動して、在フランス日本国大使館を訪問した。在フランス日本国大使館では、大使館職員からパリオリンピック・パラリンピックの準備状況等について聞き取りを行うなどにより、大規模スポーツ大会関係施策について調査を行った。

以下、6月27日に開催した事前協議会及び各都市における調査の概要を日付順に報告する。

事前協議会

視察に先立ち、名古屋市会欧州視察団は事前協議会を開催した。

協議会においては、各調査事項に関連する本市施策の現状などについて、市当局の担当者からそれぞれ資料に基づき説明を聴取するとともに、これまでリトアニアまたはランス市と交流を行ってきておられる名古屋市内の大学、高校、経済団体等の関係団体の方々から、これまでの交流の概要等の聴取を行った。

その後、関係団体を代表して、名古屋市立大学の郡理事長より、訪問先でお渡しする親書を受領した。

- 1 日 時 令和6年6月27日 午後2時～
- 2 場 所 名古屋市役所 大会議室
- 3 説明者

調査事項	関係局／説明者
ヴィリニウス市訪問、 社会経済状況調査、 平和関係施策調査	総務局／総合調整課長
大学施策調査	名古屋市立大学／国際課長
社会経済状況調査	経済局／産業企画課長
	名古屋港管理組合／総務課長
博物館施策調査	名古屋市博物館／副館長
ランス市表敬訪問	観光文化交流局／国際交流課長
美術館施策調査	名古屋市美術館／副館長
大規模スポーツ大会 関係施策調査	アジア・アジアパラ競技大会推進課より 資料を配付

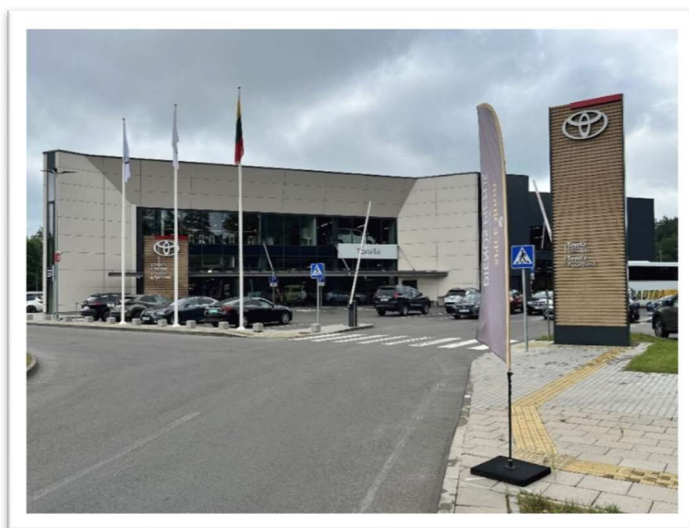




- ・視察団は、7 月 11 日の早朝に羽田空港を出発し、ヘルシンキ・ヴァンター国際空港での乗り継ぎを経て、リトアニア共和国のヴィリニウス国際空港に到着した。
- ・翌 7 月 12 日より、早速、第一の訪問先である TOYOTA センター TOKVILA へ向かった。

1 (1) TOYOTA センター TOKVILA 【社会経済状況調査】

- ◆調査日：令和 6 年 7 月 12 日 (金)
- ◆対応者：Petras Ignatas 氏 (TOKVILA 取締役会長) ほか



《調査目的・概要》

TOKVILA は、1994 年に創立されたトヨタ自動車のリトアニアにおける最初で最大の販売、サービス、修理センターである。リトアニアにおいて最大規模の販売網を持つとともに、バルト 3 国における最大かつ最新のトヨタ車体の修理センターも開設されている。

今回のリトアニアでの調査を行うに当たっては、オーレリウス・ジーカス駐日特命全権大使に様々なご尽力をいただいた。TOKVILA 訪問に際しては、オーレリウス・ジーカス駐日特命全権大使も同行され、TOKVILA の関係者とリトアニアの自動車関連産業等について意見交換を行うことができた。リトアニアにおける自動車関連産業に関する調査を行い、トヨタ自動車の関連会社も多数設置されている本市における今後の経済施策の参考とするものである。

はじめに、TOKVILA 取締役会長である Petras Ignotas 氏より、TOKVILA 及びリトアニアの自動車産業等についての説明を聴取し、質疑応答を行った。

その後、TOKVILA の修理センターについて現地調査を行った。その概要は、以下のとおりである。

なお、今回の視察では、様々な調整にご尽力をいただいた、オーレリウス・ジーカス駐日特命全権大使も同行していただき、ともに説明を聴取した。

オーレリウス・ジーカス駐日特命全権大使▶



<Petras Ignotas 氏>

名古屋市役所からようこそいらっしゃいました。

私は Petras Ignotas と申します。
TOKVILA 社の取締役会長です。

TOKVILA 社はリトアニアと東京の共同会社として 1994 年 1 月 17 日に創立され、今年 30 年を迎えました。

トヨタ自動車そしてリトアニアの自動車産業全体について紹介させていただき、その後、見学をしていただければと考えています。



▲Petras Ignotas 氏

リトアニアの人口は 280 万人ですが、首都はヴィリニュス市であり人口 60 万人の町となっています。ヴィリニュス市の旧市街地はユネスコ世界遺産に登録されています。

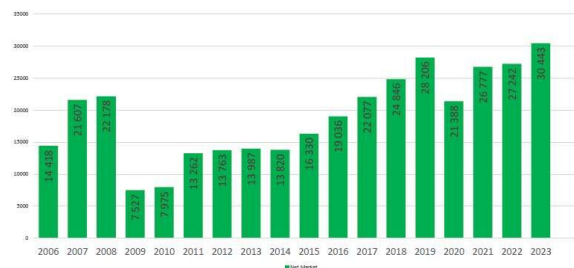


はじめに、リトアニアの自動車市場の経過についてご説明します。

リトアニアにおいて、1年間に販売される新車の数についてご説明します。

世界経済危機以来、リトアニアの市場は安定して販売数が上昇しており、約3万台の新車が1年に売られています。少し減少している2020年は新型コロナの影響で減少しています。

New car market has been growing since 2009



自動車の平均使用年数は、EUの平均では普通乗用車が12年になります。ワゴン車が12年、トラックが14年となります。

一方、リトアニアにおける自動車の平均使用年数は、自動車全体では16年となります。普通乗用車が14.6年です。つまりとても古い車に乗っている人が多いといえます。

Average passenger vehicle age is 14.6 years

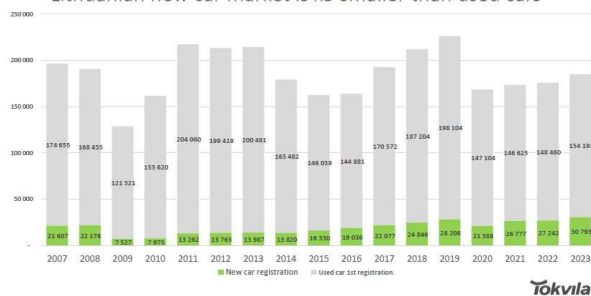
AVERAGE AGE OF EU VEHICLE FLEET



新車と中古車の割合を示しているスライドについてご説明します。

昨年の新車販売台数が3万台となります。中古車は同じく昨年15万台販売されています。したがって、割合を考えると、リトアニアの需要としては中古車の利用が目立ちます。半々になるのがいい状態とされています。

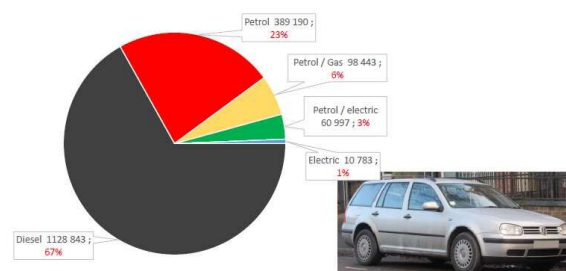
Lithuanian new car market is x5 smaller than used cars



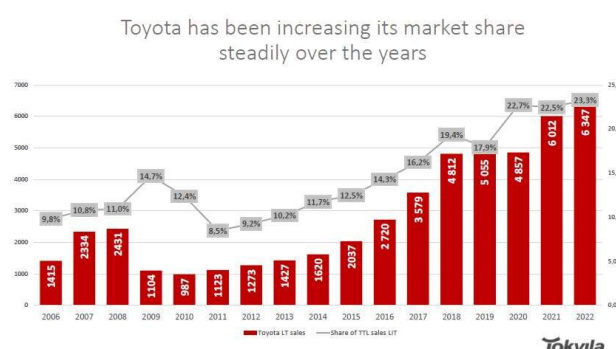
これを前向きに考えると、この会社において販売数を伸ばす余地が、これからいくらでもあるということです。

リトアニア全体では、ディーゼル、軽油を燃料とする自動車が67%。ガソリン車は23%となります。ガソリンとガスを切り替えて使える自動車もあり、その割合が6%。その他、ハイブリッド車が3%、電気自動車が1%となります。

Total passenger vehicle park size is 1.7M . and mostly diesel



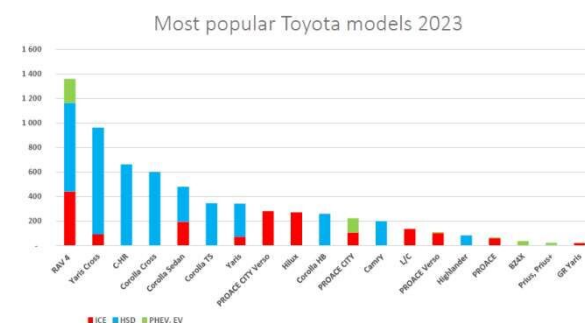
リトアニアにおけるトヨタ車の新車販売数は、2022 年は約 6,000 台です。新車のマーケットにおいて、リトアニア全体の中のシェアは 23.3% となります。日本でのトヨタ車のシェアは 40% 以上と聞いているので、まだまだ日本に追いつくための努力が必要だと感じます。



それでも、ヨーロッパの中でも一番いい数となっています。トヨタ車は 6,000 台の販売数となっていますが、トヨタ車が伸びた背景としてフォルクスワーゲンにスキャンダルがあったことと、トヨタ車が 2016 年に軽油をやめて、ガソリンに切り替えましたが、そのタイミングがとてもよかったと思っています。

次にトヨタ車のメニューについてご説明します。

1 番販売されているのが RAV4 です。ハイブリットの販売台数が 50% ぐらいとなっています。

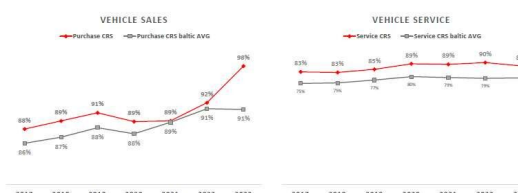


TOKVILA は、1994 年にこの場所でスタートしましたが、当初は古い建物でした。新しい建物の建築作業を始めて、2004 年にリトアニアの中でも一番大きいトヨタセンターが建てられました。

今では、リトアニアの一番大きい町であるヴィリニウスから、5 番目に大きい町までトヨタの販売店があります。

顧客満足度についてご説明します。販売に関し、顧客満足度は 98% となっています。また、サービス、点検や修理などに関して顧客満足度は 88% です。

Key focus - customer satisfaction – remains



このデータのおかげで、連続ではないですが、7 回、「一番」と表彰されています。2019 年には、バルト 3 国の中で一番良い販売店として認められています。



<議員>

先ほどの「一番」とは。

<Petras Ignotas 氏>

各地域のトヨタの販売店の中から、1 年に一つ選ばれます。毎年、バルト 3 国の中から 3 つの販売店が「一番」になります。

リトアニアの 6 つの販売店の中で、ほかの販売店より良かったということですね。同じ年にヨーロッパの中で一番となるのは 27 販売店ですね。

30 もの基準で測られるのですけれど、満たされない基準が一つでもあると、「一番」とはなりません。

<議員>

リトアニアの安全基準について教えてほしい。

<Petras Ignotas 氏>

ヨーロッパに輸入されているすべての車が安全基準を満たさなければなりません。その基準を満たせば適合証明書 (COC) が出されます。COC がなければ、その車は登録することができません。

日本の基準とヨーロッパの基準が少しずれているところがあり、安全面は日本の方が厳しいと思います。ですが、ヨーロッパの基準も厳しいものとなっていて、トヨタ以外のメーカーが COC を通すのにとても苦労すると聞いています。



<議員>

リトアニアのカーユーザーはトヨタ車の何が好きですか。

<Petras Ignotas 氏>

安定性があるからです。ちょっとジョーク的に言うと、いくら乗っても故障しない、もうそろそろ故障してほしいなあと、もっと楽しく生活させてほしいなあとと思います。

また、買い替えた際に操作を覚えなおす必要がありません。他社の場合、新しく車を買った際に、このボタンはどこだったかとか探さなければならないのですが、トヨタの場合は、仕様がスタンダードになっていて、もともと慣れている車に乗っているのと同じ感覚だそうです。

販売店としては、年数がたっても車の価格がそれほど下がらないという点がとても好きですね。新車を買ったお客さんが3年後にかなり高い値段で売りますが、買い取って修理してまた中古車として売れます。また3年たって買い取って、修理して、また売ります。

<議員>

RAV4 が売っていますが、RAV4 はどこでつくっていて、納期がどのくらいかかるのか。あと価格は。

<Petras Ignotas 氏>

RAV4 は日本から来ます。質がとてもいいです。税込みの価格だと3万6千ユーロです。消費税の21%や登録費用、保険費用も含まれています。

鍵をもらったら、すぐ道に出てもいいという状態で売られています。納車まで1年待たなければならない時期もあったんですが、今は長くても2~3か月です。注文してつくっていただいて、ここに届けられます。



<議員>

リトアニアでは、車の製造は行っていないのでしょうか。

<Petras Ignotas 氏>

メーカーではなく、車を買ってから消費者のために部分的に修理する会社があります。電気自動車用の部品を作っている会社もあります。しかし、車メーカーというものはありません。

<議員>

ヨーロッパでは 1 台の車を修理しながら長く乗るという文化があると聞いたのですが、どうですか。



<Petras Ignotas 氏>

そのとおりです。

<議員>

先ほどのお話の中で、リトアニアでは 1 台の車を 16 年ぐらい使っていると伺いました。日本では 8 年ぐらいだと思います。そこでお聞きしたいんですが、修理して皆さんに受け入れられていると。リトアニアでは車を長く利用すると、そういう文化になっているということによろしいのでしょうか。

<Petras Ignotas 氏>

そうです。そういう文化だと思います。

<議員>

最後に、私たちに対する要望などがありますか。

<Petras Ignotas 氏>

是非、リトアニアにまた来てください。

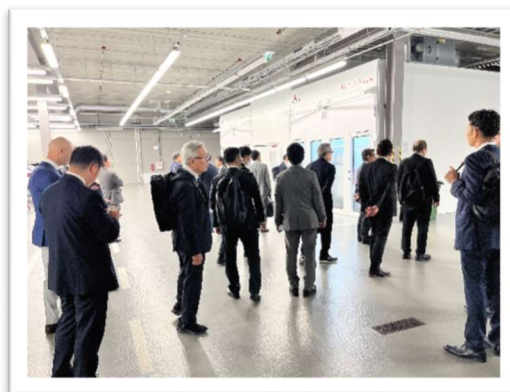
<ふじた団長>

今日はありがとうございました。リトアニアで最大規模の販売網を持つ TOKVILA、オーレリウス・ジーカス駐日特命全権大使からぜひ立ち寄ってくれと、熱烈なリクエストを受けてお邪魔させていただきました。リトアニアの皆さんに日本車、特に私ども名古屋の地元でありますトヨタの車が愛されていることを本当に強く感じました。

今後、名古屋市とヴィリニュス市は深い交流を続けていきたいと思っております。その第一弾として、リトアニアの博物館と名古屋の博物館の交流を2026年に実現したいと思っています。その時までにはまたぜひ名古屋にお越しいただきたいと思います。



懇談の後、修理センター等の現地視察を行い、トヨタ車についてはオランダのアムステルダムに拠点があり、そこから北欧に輸送されていること、今回訪問した TOKVILA が唯一の国内保管庫となっていることなどの説明を聴取した。



《所感・考察》

修理センターでは、広々とした敷地内に余裕をもってトヨタ車が置かれており、修理が行われていた。展示している自動車に RAV4 が多くあることが特に目についた。RAV4 は性能が良いと懇談の場でも紹介されていたが、リトアニアの国民に愛されているトヨタ車の一台であり、トヨタ車のすばらしさを実感した。

ヨーロッパでは車1台を修理しながら長く乗る文化があることが質疑の中から確認できた。リトアニアの TOKVILA ヴィリニウス トヨタセンターが、これまでの修理と販売を通して車を大切に使うヨーロッパの文化に溶け込んで発展していることが素晴らしいと感じた。一方で、リトアニアでは中古車の割合が高く、今後、より多くの自動車求められる状況にある。こうした接点を適切に捉え、両市の結びつきが強まれば、より多くの人的交流につながるもの考えられる。自動車産業は環境規制の対応やデジタル化など、大きな変革の時にあると言われている。本市においても次世代エネルギーとして期待される水素の社会実装の実現に向けた取組等の施策を強力に推進しているところであるが、こうした技術をどう売り込むかも大切な視点であると感じた。

今後は、両国、両市の発展のために名古屋市とヴィリニウス市との都市間交流をさらに行い、名古屋市と将来の姉妹都市提携を実現することにより、さらなる経済と文化の発展に寄与してまいりたい。

